

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900078		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム ゆとり(つつじ)		
所在地	旭川市永山4条3丁目1-20		
自己評価作成日	平成29年1月	評価結果市町村受理日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900078-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大雪山連峰に囲まれ、近くには観光名所である旭山動物園があります。四季に合わせ、ご利用者の意向を伺いながら、職員が色々企画して外出し、冬は外出が難しいので屋内行事を行い、メリハリをつけながら楽しく生活していただいています。個々のかかりつけ医や当グループホームの医療連携機関及び歯科往診等と連携をとり、安心して過ごされるよう取り組んでいます。ご利用者の身体的・精神的状況に重点を置き、個別にケアを行うことで残存機能の現状維持・向上を図れるよう努めています。地域包括支援センターや北海道認知症グループホーム協会及び行政等の研修に参加し、情報共有や職員の質の向上に努めています。今年度より、「きづなカフェ」という地域密着型のカフェが地域包括や地区社協、社会福祉施設等が参画して月1ペースで開催されているが、当事業所のご利用者も少人数ながら交代で参加し、地域住民との交流を楽しまれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くには、国道39号線、環状線があり、商業施設や病院などが立ち並ぶ一角の閑静な住宅街に開設12年目を迎える木造平屋建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。近隣の保育園の運動会に出かけたり、納涼祭では保育園児を招待して昼食会を開催するなど子どもたちとの交流の機会を設けている。また、深川の道の駅へのドライブや屯田祭り見物、北彩都ガーデンや旭山公園などでの花見、銀座商店街の七夕祭り参加や市民文化会館での歌謡コンサートに出かけるなど戸外に多く出かけられるよう支援している。地域との協力・連携では、町内会の廃品回収への協力や地域のお祭り参加、地域包括支援センターや地区社会福祉協議会、他の社会福祉施設等が参画する地域密着型のカフェ「きづなカフェ」へ利用者と共に毎月、参加して地域の人々との交流に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である『ご利用者とともに、生きる力と喜びを、地域に安心と信頼の輪を、私たちは常に可能性を追求します』を、毎朝ミーティング終了後に職員全体で唱和し、実践につなげています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り、毎朝ミーティングでの唱和や日常業務等を通じて、職員間で共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会の委員の方に参加していただき意見を伺ったり、廃品回収の協力に加え、今年度より地域密着型カフェ(きづなカフェ)に少人数ながら毎月参加もしている。	町内会の廃品回収への協力や地域のお祭り参加、地域包括支援センターや他の社会福祉施設等が参画する地域密着型のカフェ「きづなカフェ」へ利用者と共に毎月、参加して地域の人々との交流に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の委員の方に参加していただき当グループホームの状況説明の中で、認知症の症状(特にBPSD)の事とその対応について話させていただいている。また、最近の高齢者福祉の状況についても話させていただいている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た内容について、特注すべき点があれば業務推進会議で職員に報告しサービスの向上を図ったり、ご利用者の意見反映から行事等を計画したりしている。	運営推進会議を定期的に開催して、事業所の取り組み状況や日常生活の様子等の具体的な内容について話し合い、そこでの意見を運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症や運営上不明な点、事故発生時の報告等電話による確認や報告及び文書報告を行い、連携に心掛けている。	市担当者及び包括支援センターとは、地域密着型のカフェ「きづなカフェ」への参加や報告、相談等で情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、現状でそのようなケースが発症していないが、リスクマネジメント委員会を中心に身体拘束防止について会議等で周知・啓蒙を図っている。両ユニットの玄関とも日中帯は出入りが自由に出来る様開錠している。夜間帯は防犯の観点から施錠している。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為をリスクマネジメント委員会が中心となって内部研修会を開催して正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会を中心に虐待について会議等で周知・啓蒙を図っている。また、任意であるが、職員への外部研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。職員同士でもチェックを図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意であるが、職員への外部研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご利用者やご家族に対して、契約書や重要事項説明書を基に十分に説明を行い、入居や退居される際の不安やトラブル除去に努めている。又、法改正等についても変更事項を文書にて説明の上、変更の同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。苦情相談受付窓口(苦情解決責任者含む)を掲示している。また、ご利用者やご家族からの要望等があれば業務推進会議や、担当者会議等で反映を図っている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を玄関に設置し、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務体系で全員が不規則勤務という状況もあり、連絡ノートを活用しながら職員間(管理者と介護員、介護員同士)の連携を図っている。また、職員とコミュニケーションを図れるよう努め、業務推進会議等で意見等を聞く機会を設けている。	就業環境の整備に努め、職員の離職は少なく、安定したケアサービスを継続している。また、連絡ノートの活用や業務推進会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や能力に応じて、雇用形態(パートから准職員及び准職員から正規職員への登用)を考慮している。一部の資格取得の助成制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	任意であるが、外部研修への参加に取り組み、要参加費の場合は助成している。就業しながら資格取得(介護福祉士・介護職員初任者研修等)の為、試験や講習参加が可能なように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センター主催の会合や研修に参加し、同業者等の交流の場を作り、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で、ご利用者より要望等の話を十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で、ご家族より要望等の話を十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族への相談では細かい部分まで傾聴し、ご希望があれば施設見学等も行い、必要なニーズを支援していけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を作ってコミュニケーションを図りたいと思っているが、全員とは出来ていないのが現状である。ご利用者の自己決定を可能な限り尊重し、出来ることはやっていただき、出来ない部分を見守り・手伝う気持ちで接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時に挨拶を忘れずに行い、日々の様子等を伝えるよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく外出、外泊、面会等が出来るよう努めている。また、敬老会や新年会では、家族会共催行事としてご家族を招いて会食や談笑できる場の提供に努めている。	保育園児との交流やコンサートに出かけたり、お花見や紅葉見物に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の口論や勘違い等に一方的にならず話を聞き仲介し、早期解決に努めている。ご利用者一人一人の関係を把握し、支え合う関係づくりに努め、孤立しないように心がけている。職員同士で情報交換・共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約終了となっても、ご家族より気軽に相談できる場になれるよう努めている。入院に伴い退居(GH復帰不可)であってもお見舞いに伺い、ご家族への相談等にも努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者個々の希望全てに対してサービス提供を行うことはなかなか出来ないが、コミュニケーションを図りながら可能な限り意向に近づけられるよう、アセスメントやカンファレンス、業務推進会議等で検討を行っている。	一人ひとりの生活歴や日常の会話から意向の把握に努め、自宅での外泊やドライブ、レクリエーションの充実など楽しみごとや趣味への支援等で本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接やアセスメントに把握を行っている。 また、詳細等はご利用者やご家族とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録票にて記載され、情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、状態変化があった場合はその都度対応し、業務推進会議やカンファレンス等で検討し、介護計画や業務試行に反映を図っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見や要望、業務会議やカンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートを活用しながら、ケア内容や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望を把握し、可能な範囲内で柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「きづなカフェ」という地域密着型カフェの集いが月に1回あるが、参加者は少数で交代と限られた参加も、地域住民との交流と地域に事業所の存在アピールを行うことで、将来的により開かれた事業所づくりに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者及びご家族の希望や要望に沿ったかかりつけ医の受診や、医療連携機関医師の往診、同看護職員による健康チェック、歯科往診の利用の支援に努めている。	往診や訪問看護師による健康チェック、日常の健康管理や通院への支援等で適切な医療を受けられるようにしている。また、受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに看護職員の配置はないが、ご利用者の体調異変時には、その都度医療連携機関に報告、指示受けを行い適切な対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医及び医療連携機関と連絡を密に行い、状態把握(定期的週1回は入院先へ状態確認を兼ねてお見舞いに伺っている)に努めている。また、職員への状態報告や個人記録に記載し、情報の共有を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を作成し、入居前に説明。重度化した際は、ご家族と医療機関(主として医療連携機関)との話し合いの中で当グループホームの管理者が立会い、ご利用者にとって良い支援に結び付けられるよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の一人勤務に不安を感じるが、応急手当や初期対応は医療連携機関の看護職員から指示を受けて対応する。不安な場合は管理者へ連絡し、来訪する形になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施。運営推進会議にて非常時には地域の協力を要請している。災害時に建物が使用不可能な場合、当法人の介護保険施設へ一時避難が可能である。	昼夜を想定した年2回の総合避難訓練を実施し、地域の人々の協力を得られるよう体制の構築に取り組んでいる。また、災害時の一時避難場所を確保している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を配っていると思っているが出来ていない事がある。出来るだけ言葉遣いに気を付けているが、不適切な声掛けをしている事もある。声のボリュームにも留意していきたい。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないよう業務推進会議や内部研修会で話し合っている。	不適切な言葉かけがないように職員間で振り返り、情報を共有していく検討をしているので、その実践に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	自己決定出来るよう声掛けや選択肢の提供、傾聴等行い心掛けているが、出来ていない事が多い。特に認知症から自分の意思で決定できない方については結果的に職員の都合を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日の流れが決まっているので、こちら側の都合が多い。入浴や食事はご利用者のペースに合わせるようにしているが、ある程度日課が決めていることで、職員の都合を優先している事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の要望を聞きながら、服を選んでいただき、同じ服にならないよう気を付けている。又、汚れていたらすぐ取り替える様にしている。ブラッシングや髭剃り、爪切り等気づいた際に行っているものの、見落とすこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの内容を話し、材料の下ごしらえ(もやしの根取り、イモの皮むき等)やテーブル拭き、おしぼり配り、下膳、食器拭き等ご利用者の出来る事は共に行うようにしている。	献立表は、栄養士が作成して摂取カロリーや栄養バランスを把握している。また、職員と一緒に食事の準備や食器拭き、後片付け等を行っている。また、水分・食事の摂取量を把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は委託業者の栄養士作成の献立から問題ないが、一人一人の食事量や水分量も異なるので個人記録に記載の上留意し、入浴後にはスポーツドリンクの提供を行っている。状況によっては主治医と相談して助言や処方していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行ないケアしていただいている。自力で出来ないご利用者には介助している。拒否があった場合は無理強いしないで時間を空けて様子を見ている。また職員間の情報交換し、ご利用者への声掛けを工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声掛けを行い、可能な限りトイレ誘導を行っている。パット、下着等汚染があれば交換を行い、やむなくオムツ介助の方でも訴え時や定時にパット等確認し交換している。共に排泄リズムや兆候動作を把握できる様努めている。	一人ひとりの力や排泄のパターンを把握して、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最小限での下剤使用にとどめ、水分を摂っていただき、自然排便を促すことで、入居者の排便パターンに応じた対応をしている。軟便、下痢等続くようなら医師に相談して下剤コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日が決まっているので毎日にはならないが、1回でも多く入浴していただけるよう心掛けている。入浴中も会話を取り入れたりしている。決まっているがゆえに拒否が強い方へ時間等ずらず配慮あるも強引さもあると思われる。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせた入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣が異なるため居室、ホール、ご利用者個々がリラックスできる所で休んでもいただける様心かけている。個々の就寝時間に合わせ支援しているが、傾眠が強い方には昼でも短時間居室で休んでもいただく様に声掛け誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	原則トリプルチェックにて誤薬防止に努めている。内服薬の種類把握、確認表の作成、与薬時名前や時間を口に出し渡している。ご利用者にも確認していただくことも可能であれば行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割的な出来る事を共に行う努力はしているが、偏りがある。現在もレクリエーション(毎日の体操や様々なゲーム等)行っているが、出来れば種類を増やしたいと思っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や外気浴、小グループ外出を行っているが、行ける利用者に偏りがある。日常会話の中で希望の外出や興味を伺い、季節を反映させながら大小行事等に反映させている。今年度より「きづなカフェ」に少人数ではあるが参加者を代えて参加し、地域住民と交流も図っている。	近隣の保育園の運動会に出かけたり、深川の道の駅へのドライブや屯田祭り見物、北彩都ガーデンや旭山公園などでの花見、銀座商店街の七夕祭り参加や市民文化会館での歌謡コンサートに出かけるなど季節毎に戸外に多く出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金として管理者が管理している。過去には一部自己管理出来ていた方もいたが、現在のご利用者は本人からも自己管理に対し後ろ向きである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者個々の居室に電話が設置可能だが、現在電話を設置あるいは携帯電話を所持されている方はいない。しかし、当事業所の電話を利用して(番号かけるのは介助で)ご家族と連絡を取り合う方はいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的な掃除はもちろんだが、季節に合った室内装飾(ひな祭り、クリスマス等)を行い生活感ある暮らしが出来るよう努力している。ホールのソファでは新規ご利用者入居の際に相性等で揉めることもあり、今後も職員間で話し合っていくたい。	共用空間は天井も高く、ゆったりとしていて清潔感が漂い、季節毎の飾りつけや行事参加の写真等が飾られるなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲んで、1人掛けソファと3人掛けソファを設置し、ゆったり寛げるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使用されていた馴染みのある筆筒や椅子、花瓶、写真等を持参していただき、安心して落ち着きやすい居室になるよう支援している。	居室には、馴染みの家具やソファ等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、玄関等に手すりを設置し、移動の際は安全に自力歩行が出来る様に指示していただき、支援している。一部居室にも手すりを設置し、残存機能維持につなげている。食器拭きや居室清掃も共に行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900078		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム ゆとり(ななかまど)		
所在地	旭川市永山4条3丁目1-20		
自己評価作成日	平成29年1月	評価結果市町村受理日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900078-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大雪山連峰に囲まれ、近くには観光名所である旭山動物園があります。四季に合わせ、ご利用者の意向を伺いながら、職員が色々企画して外出し、冬は外出が難しいので屋内行事を行い、メリハリをつけながら楽しく生活していただいています。個々のかかりつけ医や当グループホームの医療連携機関及び歯科往診等と連携をとり、安心して過ごされるよう取り組んでいます。ご利用者の身体的・精神的状況に重点を置き、個別にケアを行うことで残存機能の現状維持・向上を図れるよう努めています。地域包括支援センターや北海道認知症グループホーム協会及び行政等の研修に参加し、情報共有や職員の質の向上に努めています。今年度より、「きづなカフェ」という地域密着型のカフェが地域包括や地区社協、社会福祉施設等が参画して月1ペースで開催されているが、当事業所のご利用者も少人数ながら交代で参加し、地域住民との交流を楽しまれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と				
			2 利用者の2/3くらいの				2 家族の2/3くらいと				
			3 利用者の1/3くらいの				3 家族の1/3くらいと				
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように				
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度				
			3 たまにある				3 たまに				
			4 ほとんどない				4 ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている				
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている				
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない				
			4 ほとんどいない				4 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が				
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が				
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が								
			2 利用者の2/3くらいが								
			3 利用者の1/3くらいが								
			4 ほとんどいない								

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である『ご利用者とともに、生きる力と喜びを、地域に安心と信頼の輪を、私たちは常に可能性を追求します』を、毎朝ミーティング終了後に職員全体で唱和し、実践につなげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会の委員の方に参加していただき意見を伺ったり、廃品回収の協力に加え、今年度より地域密着型カフェ(きづなカフェ)に少人数ながら毎月参加もしている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の委員の方に参加していただき当グループホームの状況説明の中で、認知症の症状(特にBPSD)の事とその対応について話させていただいている。また、最近の高齢者福祉の状況についても話させていただいている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た内容について、特注すべき点があれば業務推進会議で職員に報告しサービスの向上を図ったり、ご利用者の意見反映から行事等を計画したりしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症や運営上不明な点、事故発生時の報告等電話による確認や報告及び文書報告を行い、連携に心掛けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、現状でそのようなケースが発症していないが、リスクマネジメント委員会を中心に身体拘束防止について会議等で周知・啓蒙を図っている。両ユニットの玄関とも日中帯は出入りが自由に出来る様開錠している。夜間帯は防犯の観点から施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会を中心に虐待について会議等で周知・啓蒙を図っている。また、任意であるが、職員への外部研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。職員同士でもチェックを図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意であるが、職員への外部研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご利用者やご家族に対して、契約書や重要事項説明書を基に十分に説明を行い、入居や退居される際の不安やトラブル除去に努めている。又、法改正等についても変更事項を文書にて説明の上、変更の同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。苦情相談受付窓口(苦情解決責任者含む)を掲示している。また、ご利用者やご家族からの要望等があれば業務推進会議や、担当者会議等で反映を図っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務体系で全員が不規則勤務という状況もあり、連絡ノートを活用しながら職員間(管理者と介護員、介護員同士)の連携を図っている。また、職員とコミュニケーションを図れるよう努め、業務推進会議等で意見等を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や能力に応じて、雇用形態(パートから准職員及び准職員から正規職員への登用)を考慮している。一部の資格取得の助成制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	任意であるが、外部研修への参加に取り組み、要参加費の場合は助成している。就業しながら資格取得(介護福祉士・介護職員初任者研修等)の為、試験や講習参加が可能なように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センター主催の会合や研修に参加し、同業者等の交流の場を作り、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で、ご利用者より要望等の話を十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で、ご家族より要望等の話を十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族への相談では細かい部分まで傾聴し、ご希望があれば施設見学等も行い、必要なニーズを支援していけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを日常生活の中でどの様に思っているのか気づき、本人が心地よいと思える生活が出来るよう心掛けている。関わる際にコミュニケーションを大切にしているが、忙しくなるとままならなくなる。不快と思われることの無いよう接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に日常生活の様子をありのままに伝えている。特に健康面で微妙な変化を伝えることに心がけている。その後ご利用者とご家族での団らんの時間を本人居室等で過ごして頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく外出、外泊、面会等が出来るよう努めている。また、敬老会や新年会では、家族会共催行事としてご家族を招いて会食や談笑できる場の提供に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症重度の方も入居され、ご利用者同士での支え合いは困難な場合もあるが、職員が間に入ることで人間関係が円滑になれるよう、又、孤立することがないよう留意している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約終了となっても、ご家族より気軽に相談できる場になれるよう努めている。入院に伴い退居(GH復帰不可)であってもお見舞いに伺い、ご家族への相談等にも努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者個々の希望全てに対してサービス提供を行うことはなかなか出来ないが、コミュニケーションを図りながら可能な限り意向に近づけられるよう、アセスメントやカンファレンス、業務推進会議等で検討を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接やアセスメントに把握を行っている。 また、詳細等はご利用者やご家族とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録票にて記載され、情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、状態変化があった場合はその都度対応し、業務推進会議やカンファレンス等で検討し、介護計画や業務試行に反映を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートを活用しながら、ケア内容や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望を把握し、可能な範囲内で柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「きづなカフェ」という地域密着型カフェの集いが月に1回あるが、参加者は少数で交代と限られた参加も、地域住民との交流と地域に事業所の存在アピールを行うことで、将来的により開かれた事業所づくりに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者及びご家族の希望や要望に沿ったかかりつけ医の受診や、医療連携機関医師の往診、同看護職員による健康チェック、歯科往診の利用の支援に努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに看護職員の配置はないが、ご利用者の体調異変時には、その都度医療連携機関に報告、指示受けを行い適切な対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医及び医療連携機関と連絡を密に行い、状態把握(定期的週1回は入院先へ状態確認を兼ねてお見舞いに伺っている)に努めている。また、職員への状態報告や個人記録に記載し、情報の共有を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を作成し、入居前に説明。重度化した際は、ご家族と医療機関(主として医療連携機関)との話し合いの中で当グループホームの管理者が立会い、ご利用者にとって良い支援に結び付けられるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の一人勤務に不安を感じるが、応急手当や初期対応は医療連携機関の看護職員から指示を受けて対応する。不安な場合は管理者へ連絡し、来訪する形になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施。運営推進会議にて非常時には地域の協力を要請している。災害時に建物が使用不可能な場合、当法人の介護保険施設へ一時避難が可能である。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	笑顔で優しく言葉かけを心がけているが、忙しかったり時に感情的になったり適切ではない言葉かけの時もある。自尊心を傷つけない様に留意している。拒否があれば理由を聞いて無理強いせず意思を尊重するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴え、外に行きたい時は、一緒に外へ行き、思いにそって行動する。自己決定が困難な方に対しては選択肢を提示して最終的に本人が選べる様に配慮している。しかし業務の中でこちらで判断してしまっている部分も少なくない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人のペースを大切にしているが、1日全体の日課に沿ってることが多いため、したくない事を無理に強要していると思う。中には時間を持て余して自室で過ごされている時間の長い方がいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時身だしなみを整えている。行事(新年会や敬老会)は女性ご利用者へ化粧している。服の選択も最終判断を本人に委ねる様配慮するが、こちらで決めてしまっている事もある。爪も随時確認して長ければ切るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べれないメニューの時は、他のメニューに変更し、食材によっては細かく切り食べやすいように職員同士情報共有して提供している。食器拭きをご利用者をお願いしているが、特定の方のみである。食事時間は職員とご利用者は別である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は委託業者の栄養士作成の献立から問題ないが、一人一人の食事量や水分量も異なるので個人記録に記載の上留意し、入浴後にはスポーツドリンクの提供を行っている。状況によっては主治医と相談して助言や処方していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状況に応じて見守り、声掛け、介助を口腔ケアとして行っている。拒否があった場合は無理強いしないで様子を見て時間をおいて再度声掛けしている。但し、自力でされている方については口腔状態の把握が今一つ出来ていないのが現状。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄量に応じてパットのサイズや排泄周期の上でトイレ誘導等の時間を考慮し、出来る限り不快感を与えない様に努めている。排泄状況は個人記録に記載し、職員の情報共有に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便の間隔を記録し主治医の指示の下で下剤等の使用や、運動の声掛け、水分摂取量の増量等取り組んでいる。極力薬を使用しないで自然排便に努めたいが、限界がある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	日課で入浴日が決まっている為、その日の中で個人で外出される日や行事で入浴日を変更することがある。個人が入りたい日に入ることが出来ていない。拒否あれば強要せず日時をずらして再度誘っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人が気持ちよく入眠できる様、寝具をきれいに整え、居室内の温度等心地よい環境づくりに努めている。認知症で夜間寝られなかった方へは、昼間時間を決めて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時等薬に変更があった時は説明書を確認し、本人に変化がないか観察・見守りに努めている。与薬の際はチェック表を近くにおいて活用することで、誤薬予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者と共に楽しみを見つける。ぬり絵、花札、ゲームなどを行い気分転換の時間を作れる様努めている。実際は全体で楽しむ事が多く、個別への対応が充実出来ていない。役割も特定の方々だけである。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけて天気の良い日は外気浴を行っている。認知症の帰宅願望の付き添いも行っている。本人の希望で買い物に行きたい方は、すぐそばのコンビニへ同行しているが、限られた方のみになっている。地域密着型カフェである「きづなカフェ」も少人数ながら毎月参加も定着してきている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金として管理者が管理している。過去には一部自己管理出来ていた方もいたが、現在のご利用者は本人からも自己管理に対し後ろ向きである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者個々の居室に電話が設置可能となっているが、現在電話を設置あるいは携帯電話を所持されている方はいない。しかし、当グループホームの電話を利用して(番号かけるのは介助で)ご家族と連絡を取り合う方はいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは目の不自由な方もいる為、必要な物(椅子やテーブル等)で嗜好品はおいでないが、季節感の飾り付けは行っている。職員間あるいは対ご利用者に大きな声で話してしまうことがあるため今後留意していきたい。飾り付けについて個々の好みもあるので、ご利用者と共に行っていきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲んで、1人掛けソファと3人掛けソファを設置し、ゆったり寛げるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使用されていた馴染みのある筆筒や椅子、花瓶、写真等を持参していただき、安心して落ち着きやすい居室になるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、玄関等に手すりを設置し、移動の際は安全に自力歩行が出来る様に指示していただき、支援している。一部トイレにも手すりを増設し、残存機能維持につなげている。食器拭きや居室清掃も共に行っている。		

目標達成計画

事業所名： グループホームゆとり
作成日： 平成 29年 2月 24日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	36 及び 38	ご利用者の言動に感情的になり、ケアに支障をきたすことがある。	プロとしての自覚を持ち、より良いケアに繋げていく。	①言動の意味を把握し、職員間で情報を共有して理解する。 ②自分の言動を振り返り、反省と課題を模索する。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。